

研究主題 安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

議題 「2-1のかかりかつどうをレベルアップしよう!」 (1)イ 学級内の組織づくりや役割の自覚

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。

社会参画

よりよい集団や社会を作ろうとする力を育てる。

自己実現

なりたい自分に向けてがんばる力を育てる。

2. 第1学年及び第2学年における評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、1年生が入学したことで上級生としてがんばる姿が見られ、特に友だちを誘い合っ休み時には元気に外で遊んだり教室でおしゃべりしたりして友だちと進んで関わろうとしている。しかし、学校生活アンケートの項目「いやなことをされたことがある」では、クラスの友だちにいやなことを言われた・されたことがある児童が30人中9人おり、まだ友だちとの関わり方が分からなかったり、不安を感じたりしている実態がある。さらに、1学期ごろから登校しぶりの児童が出始めているので、児童全員が安心して過ごしたり楽しく学校生活を過ごしたりできる工夫が必要である。

学級活動については、第1回学級会でオリエンテーションを行い、何のために学級会をするのかを確認した後で、学級会の進め方の動画を見た。1年生の時も学級会をしているが、動画を見た児童の中から「こんな風にするんだ。」というつぶやきが見られ、イメージの共有化を図ることができた。第2回学級会では、進級したときに3人の転校生がやってきたこともあり、一人ひとりともとなかよくなる方法について話し合っている。自分がしたいことを言う児童が多かったが、回を重ねるごとに提案理由に立ち戻り、「みんなが楽しめるためにはどれがいいか(どうすればいいか)」という視点を持ち始めつつある。しかし、自信が持てず発表することを躊躇してしまう児童がいたり、一部の児童のみで話し合いが進行していくことがあるのが課題である。そこで、学級会の最後の先生の話や学級会の掲示物を活用して提案理由やめあてを意識している発言やうなずくなどの反応をしている態度を称賛し、価値付けていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、初めての係活動に取り組んでみて、もう一度係を見直して決めることとそのため工夫を出し合っ、もっと2-1が楽しくなるようにしたいという児童の提案によるものである。意欲的に取り組もうとしている反面、つい忘れてしまったり決めた日に活動が間に合わなかったりする時があり、思うようにいかないところが出てきた。そこで、学級活動(3)で係活動の振り返りを行うことで、一人一人が今回の係活動をレベルアップさせるためにどうすればよいかについて、自分事として少しずつ考えることができるようになってきた。本議題で係を決めて、2-1がもっと楽しくなる工夫を出し合うことで、児童にとって必要感のある話し合いにしたい。

そこで、柱1では「みんなで楽しくできる係をきめよう」、柱2では「みんなが楽しくなる工夫」を設定する。みんなですることをみんなで考えることを通して、話し合うことの良さも感じてほしい。

4. 指導と評価の計画

事前の活動		本時の展開			事後の活動	
日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)	本時のねらい みんなが楽しくできる係を決めたり、みんなが楽しくなる工夫を話し合ったりすることができる。			日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)
11月15日(火) ①昼休み ②帰りの会	①議題の決定計 ・議題カードをもとに話し合う議題を決める。 ②議題の周知計 ・提案理由を明らかにして、学級全員に伝え、学級会コーナーに掲示する。	話し合いの順序	気をつけること ○留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】	12月2日(金) ①学級活動 ②帰りの会	①改善策を各係で取り組む学 ・内容に応じて掲示コーナーを作成したり、帰りの会で呼びかけしたりする。
11月18日(金) ③昼休み ④帰りの会	③役割分担計 ・学級会の進行の仕方を確認する。 ④案募集学 ・学級会ノートに自分の考えを記入する。	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。		12月9日(水) ③帰りの会	②振り返り学 ・めあてに基づいた振り返りを行う。 ・自分の役割や友だちの良さについても振り返り、自他の頑張りを認められるよう助言する。
11月21日(月) ⑤帰りの会	⑤学級会のシュミレーション計 ・進行、板書をイメージしながら確認し、話し合いの見通しをもてるようにする。	4 提案理由の確認 5 めあての確認 6 決まっていることの確認 7 先生の話	・提案者の思いや願いが伝わるよう、事前に背面黒板に記入して学級全体で周知しておく。 『2-1のみんなが今よりもっと楽しくなる係を決めよう』 ○条件を提示し、係活動が円滑に取り組めるようにする。			
		8 話し合い 話し合うこと① 「みんながもっと楽しくなる係をきめる」 話し合うこと② 「みんながもっと楽しくなるふう」 話し合うこと③ 「どの係をするか」	○前時までの取り組みの良かったところと期待を伝え、本時の意欲を高める。 ・事前に各係から困っていることを集約しておき、短冊に書いておく。 ○司会が進行に困ったときには、ペアやグループで話し合う時間を確保し、みんなで課題解決に向かって話し合えるようにする。 ○必要に応じて、提案理由に沿ったものかどうか、考えられるよう助言する。	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎係活動をさらに充実させてクラスを楽しくするために、合意形成を図りながら意見を出したり聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】		◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎学級会で決まった改善策に取り組み、よりクラスが楽しくなるよう友達と協力して取り組んでいる (主体的態度) 【行動観察】 ◎めあてに沿った意見を出したり、友だちの意見を聞けたか等を振り返れている。 (思考・判断・表現) 【行動観察・振り返りカード】
		9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	○話し合いが途切れないように、柱ごとに発表する。 ○自分自身や友だちの成長したところやよかったところを発表するようにする。 ○提案理由やめあてを意識している発言や、うなずくなどの反応をしている態度を称賛する。 ・今後の実践への意欲が高まるように言葉掛けを行う。			

◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎よりよい学級生活づくりのための見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (主体的態度) 【学級会ノート・観察】 ◎「かかりかっどうをレベルアップしよう!」の目的に合った意見を考え、学級会ノートに書いている。 (知識・理解) 【学級会ノート・観察】

5. 板書計画

<p>話し合うこと③ どのかかりをするか ○○かかり(メンバーの名前プレート)</p> <p>まとめる</p> <p>話し合うこと② みんなが楽しくなるふう</p> <p>○○かかり ・帰りの会で言う。 ・週に△回する。 □□かかり</p> <p>話し合うこと① みんながもっと楽しくなるかかりをきめる</p> <p>○○かかり ・△△かかり</p> <p>まとめる</p> <p>話し合うこと① みんながもっと楽しくなるかかりをきめる</p> <p>○つきのかんがえながら、かかりをレベルアップするないうきをきめよう。 クラスのみんながにこにこになるかかりか</p> <p>めあて かかりは二人以上 きまっていること 2の1のみんなが今よりもっと楽しくなるかかりをきめよう</p> <p>ていあんりゅう みんながずっと楽しくできるかかりをきめて、2の1のみんながもつとにこにこになるようなかかりにレベルアップしたいから。</p> <p>はなしあうこと 「2の1のかかりかっどうをレベルアップしよう!」</p> <p>第 回 学級会</p>
--